

# 慈恩寺中だより

学校教育目標「自主自立をめざす生徒」 キーワード「努力夢現」「挑戦と煌」

## 思いやりがつくる、安心安全であたたかな学校へ

校長 高波 國夫

先日、埼玉会館で開催された「防犯・暴力排除・交通安全市民大会」に参加してまいりました。その中で、慈恩寺中学校は、市内の小中学校の中で唯一、これまでの交通安全への取組が高く評価され、表彰を受けました。これは、いわつき自動車学校での交通安全教室をはじめ、日々積み重ねてきた生徒・教職員・地域の皆さんの努力の成果です。毎朝、私が正門前で旗を振っていると、「おはようございます」と丁寧に会釈してくれる生徒に会います。また、横断歩道で車が止まってくれたときに、自然に頭を下げて感謝を伝える生徒も多くいます。こうした一つひとつの行動が、交通安全の本質である「交通ルールを守り、相手を思いやりながら行動すること」を体現しています。皆さんが毎日の生活の中で、相手の立場を考えながら安全に行動していることを、私は心から誇りに思います。

大会の後半では、「絶対にSNSで失敗しない方法」というテーマの講演を聴きました。60分にわたる講演の結論は、「SNSに投稿する内容は、1日家の玄関に貼れるものにするといい」というものでした。つまり、自分が書いた言葉や映像を、周囲の人に常に見られていると考え、それでも恥ずかしくない、誰かを傷つけない内容であるかを確認することが大切だということです。これは、SNSだけでなく、日常の会話にも通じる考え方だと思います。

私たちは子どものころから「人に嫌がることをしてはいけません」と教えられてきました。しかし、自分では大丈夫だと思っていても、ある人にとっては不快に感じられることがあります。例えば、教室で「人の悪口を言う（誹謗中傷）」「人をからかう（名誉毀損）」といった行為があります。言っている人や笑っている人は楽しんでいるつもりでも、その場にいる誰かは「嫌だな」「不快だな」と感じているかもしれません。だからこそ、口に出す言葉も、SNSに投稿する内容も、常に相手の立場を考えて慎重に選ぶ必要があります。

毎年、12月4日から10日は「人権週間」です。人権とは、誰もが尊重され、安心して暮らすための大切な権利です。交通安全やSNS、学校生活でも「相手の立場に立つ」ことを意識し、思いやりある行動を心がけましょう。

12月は一年の締めくくりです。新しい年を迎える前に、自分の言葉や行動を振り返り、周囲への思いやりを大切にしていきましょう。（上の挿絵は11/25にCopilotにて作成）

